

後援：文部科学省、米国大使館

将来のグローバルリーダー達が東京に集結！

7月30日・31日にNFLJ第2回全国大会(英語ディベート大会)が東京で開催され、本校からは2チーム(高校2年生・4名)が参加しました。参加全72チームのうち、多くがインターナショナルスクールやIB(International Baccalaureate)校、もしくはSGH(Super Global High School)校で、中国と韓国(NFL China / NFL Korea)からも12チームが参加し、国内では稀にみるグローバルな舞台でハイレベル戦いが繰り広げられました。今回のトピックは、“On balance, personal genetic services are beneficial to

public health.”でした。参加にあたり、生徒たちは「21世紀(文系選択科目)」の授業や放課後の時間を利用して、トピックについて事前リサーチを行い、練習を重ねました。大会当日は、相手チームの立論に対する反駁に難儀するシーンが見られたのと、信ぴょう性の高い証拠を十分に集めきれなかったがゆえに、逆に相手からの反駁への対応に苦慮する場面も見受けられました。本校生徒達は残念ながら予選リーグ敗退となりましたが、今回の経験を通して、「学校内では得がたい教訓」を得たようです。

01 対戦校一覧(戦績は3勝5敗！)

Round1

宇都宮C(栃木) vs 明法A

伊那北C(長野) vs 明法B

Round2

St. Mary's International School B(東京) vs 明法A

Zhangjiang Experimental(中国) vs 明法B

Round3

宇都宮A(栃木) vs 明法A

Nanjing FLS(中国) vs 明法B

Round4

県立浦和(埼玉) vs 明法A

立命館C(京都) vs 明法B

2年連続優勝校
(全米大会に参加)



02 参加生徒による感想文(一部抜粋)

日本全国の学校だけでなく海外の学校も参加していたので、当日は会場がまるで異国に思えました。試合を通して、僕は衝撃を2つ受けました。1つは「世界は広い」ということ。2つ目は「英語で主体的に物事を考え、それを効果的に伝えることは重要だ」ということ。日本の学校とは違い、海外の学校は生徒が自分から発言するというスタイルが一般的です。「21世紀」のような授業の必要性を強く感じました。(中略)基本的に、僕はこれまで「自分は自身の学校で切磋琢磨するもの」だと思い込んでいましたが、今回の経験で考えが変わりました。これからは、「世界を土俵に自分を磨く」ことを目標に精進していきたいです。(D君)

中国チームと対戦



試合中の風景



懇親会での一コマ

